

木村俊子

特定検診・保健指導事業について、平成23年度からは集団検診のミニドックを実施しているが、特定検診の受診率向上の方策として、24年度はどのような対応を行うのか、また保健指導の充実も図るべきとたたじた。これまで検査料が2千円であったミニドックは、24年度は千円で実施すると答弁があった。

天神林美彦

防災対策強化事業費における「海抜表示看板の追加」に関しては、より効果的な設置にする観点から、人が集まる公園などの電柱へ集中的に設置することも、屋内避難所への設置では「津波のときは高台へ」など、明確な行動指示を記載すべきであると提案した。

山口賢治

水道事業会計の中で、貯水施設の老朽化に対する対応と、今後の計画を確認した。この事業については企業会計なので、施設増改築費などについては、事業収入により対応することになるため、水道料金にも影響が出る。今から施設整備計画を具体的に検討するべきと提案した。

渡辺勉

年間総発注額が1億円を超えている市の小規模修繕に係る随意契約について、業者との癒着防止のためのチェック体制について質問。当市での発注業者選定は、担当グループ内で協議し決定している。今後、毎月の発注状況の部長への報告内容とテータの作成方法を検討すると答弁があった。

佐々木久美子

生活保護扶助費の延べ人数が減少しているが、これは保護の申請を抑えているということか。
 答 保護の申請を受け付けないようにするわけではない。保護制度の適用が必要な人には、保護の実施要綱に基づき適正に対応している。

工藤俱二雄

旧登別温泉小学校体育館解体事業費と消防緊急デジタル整備事業費について質問した。開校100周年で閉校した学校の解体であることから、安全に考慮して、体育館の壁にあった思い出の校歌などの移設や、デジタル整備に関しては、3億円強の予算の内訳など、市民の安全につながる質問をした。

補正予算審査 (3月16日)

村井寿行

生活保護扶助費を1億9千700万円増額しているが、その原因としてどのようなことがあるのか。

答 扶助費の中身については、教育・住宅・医療・介護・出産・葬祭などがあり、その中でも医療費が10%以上の増となり、全体の約62・49%を占めている。

木村俊子

登別温泉コンシエルジュサービスアンテナショップについて、国内外のお客様に対応することから、国別にカウントするだけではなく、その用件を集約することが今後の観光にとって重要な資料になるのではないかとたたじたところ、観光協会に委託しているので、検討していきたいと答弁があった。

補正予算審査 (3月1日)

佐々木久美子

予備費の除雪費について、大雪が降り、歩行者の安全を考えた場合に、歩道でのより細かな除雪をすべきではないか。

答 機械を使つての除雪を行い、また歩道での除雪もこまめに取り組む。

渡辺勉

登別地獄まつり半世紀記念事業の予算1万円に対し、執行率54・1%である。企画段階で市民がどのような事業を望んでいるかの把握の仕方がずさんだったのではないか。50周年に向けて検証と企画の練り直しを行うべきであると指摘したところ、新企画を検討中との答弁があった。



白老町議会議員との 議員研修会を開催

2月6日、白老町議会と登別市議会との議員研修会を開催しました。

この研修会は、白老町と登別市の両議会議員の資質の向上と親睦を深めることを目的に、毎年度開催しているもので、平成23年度は白老町を会場に行われました。

今回は「議会と住民の関係」をメインテーマに4つのグループに分かれて、「情報発信を図る議会広報のあり方」「住民参加を考える住民対話のあり方」を討議テーマに討論を行いました。

登別市議会は、議会だより「でいすかす」での情報発信の具体例や市議会ホームページによる情報発信のあり方を登別市議会基本条例に沿って説明を行いました。

議会議員として、住民への情報提供のあり方や情報発信、コミュニケーションなど、広報紙やホームページの情報発信も必要だが、住民との直接対話もお互いの理解を深めるために有効な手段ではないかなど、活発な議論が交わされました。